

環境教育・環境学習の推進

「佐世保ならではの」環境市民プロジェクト

環境問題は子どもから大人まで生涯学習として取り組む必要があります。学校や公民館など身近な地域を通じて、年代・対象ごとに学習メニューや学習の場などを提供したり、市民・事業者・地域・行政などが連携して取り組んだりするなど、総合的な環境教育・環境学習を推進する「環境市民」を育むプロジェクトです。

【主な目標】

温室効果ガス排出量 マイナス**6%**(平成24年度まで)

※平成2年の温室効果ガス排出量との比較で算出します。
平成17年度=9.1%増



佐世保ブランドの確立と発信

「佐世保らしさ」発見・発信プロジェクト

各地域の隠れた自然、歴史・文化、産業などの地域資源を、市民自らが発掘・創出し、「オール佐世保(注1)」で、佐世保の個性や魅力を磨き上げ、それらを佐世保ブランドとして、全国に発信していくプロジェクトです。

【主な目標】

年間の観光客数 **510万人**(平成24年まで)

※本市を訪れる観光客数で計ります。
平成18年=470万人



地域ぐるみで災害・犯罪などを未然に防止

地域でつくる安全・安心なまちプロジェクト

地域住民の支え合いを大切にし、災害や犯罪による被害や、交通事故等の未然防止のための自主的な取り組みを通じて、「地域ぐるみ」での「安全・安心な生活を守るまちづくり」の仕組みを構築するプロジェクトです。

【主な目標】

災害への備えを実践している市民の割合 **31%**
(平成24年度まで)

※市民意識アンケート調査で計ります。
平成18年度=18.7%



重点プロジェクト

外出しやすくなる環境づくり

地域のお出かけ支援プロジェクト

人や環境にやさしい公共交通を中心に、市民や来訪者等が安全で快適に移動することができる地域交通ネットワークの構築を進めるプロジェクトです。

【主な目標】

目的地まで円滑に移動できると思う市民の割合

80%(平成24年度まで)

※市民意識アンケート調査で計ります。
平成18年度=78.5%



元気な産業を支える基盤づくり

産業を支える人づくりプロジェクト

製造業の技術者や農林水産業の後継者の育成、幅広い分野の起業家の支援等、各種の技術・サービスの向上と継承などを目的とした地域人材育成事業を総合的に進め、地場産業の活性化と雇用拡大を図るプロジェクトです。

【主な目標】

市内の総生産額 **7,600億円**(平成24年まで)

※市内で新たに生み出されたものを金額に換算して計ります。
平成16年=7,530億円



家庭・学校・地域で子育て・教育環境づくり

心豊かな「佐世保っ子」育成プロジェクト

子どもたちが、地域の将来を担う宝であることを改めて認識し、家庭・学校・地域が一体となって支える子育て・教育の環境(社会システム)づくりを推進するプロジェクトです。

【主な目標】

子育て支援の取り組みに対する市民の満足度 **36%**
(平成24年度まで)

※市民意識アンケート調査で計ります。
平成18年度=30.7%



年代に応じた心と体の健康づくり

健康ライフ応援プロジェクト

子どもは「食育」、中高年は「生活習慣病予防」、高齢者は「介護予防」など、年代に応じて、自ら進んで取り組む「心と体」の健康づくりを総合的に応援するプロジェクトです。

【主な目標】

健康だと思う市民の割合 **80%**(平成24年度まで)

※市民意識アンケート調査で計ります。
平成18年度=74.3%



市民協働を進める計画の推進

今回の総合計画には、前述した「③点検評価で進化し続ける」視点から、基本計画の中に「都市経営編」が盛り込まれています。都市経営とは、市民協働の考えのもと、市民と行政が対等・平等なパートナーとして、共に都市を経営するという視点を持って、まちづくりを進めていくことをいいます。

つまり、市民と行政がまちづくりの目標のために協働しながら政策などを着実に実施し、さらに点検評価を行い効果を検証し、その結果を踏まえ、必要な改善・見直しを行うということです。そうすることで、総合計画はより確実に目標に近づいていくことでしょうか。

本市では、今後も、市民意識アンケート調査などを毎年実施したり、市民の皆さんの声を反映できる仕組みを作ったりして、総合計画が目標に向けてどれだけ進捗しているかを点検評価していきます。

ただし、目標を達成するには、市民・事業者・行政の三者がお互いに連携することが不可欠です。一人一人が、まちづくりの目的を理解し、ずっと暮らし続けたいかなるような、また、何度でも訪れたいかなるような、個性と魅力あふれる「キラッと輝くまち」佐世保を目指しましょう。



高橋 信幸 (たかはし・のぶゆき)さん
長崎国際大学教授。「佐世保市総合計画を考える市民会議」(ことし3月末解散)の座長。現在は、佐世保市地域福祉計画策定委員会委員長。

総合計画を考える市民会議の座長に聞きました

市のまちづくりの大きな財産になったと思います

「佐世保市総合計画を考える市民会議」は、約70人の市民が手を挙げて集まり、ワークショップという全員の意見が反映されやすいような形式で進められました。座長として、約70人の意見を一定の方向性にまとめていくことが難しかったのですが、皆さんと楽しく積極的に意見を出し合い、お互いに折り合いをつけながら提言書をまとめることができ、すごく良かったと思っています。

また、提言書を基に、長崎県立大学、長崎国際大学、アルカスSASEBOで発表会を開催し、学生や市民と佐世保の将来を話すことができたことは、特に印象的でした。

これらの取り組みは、今後の佐世保市の市民参加、市民協働によるまちづくりを考えると、とても大きな財産になったと思います。

注1:オール佐世保=観光事業者、行政、民間事業者、観光推進組織、市民・地域活動団体、教育機関など佐世保市民が一体となって観光に取り組む姿勢。